



TITLE:

医学教育共同利用拠点としての現状と展望(<第2部>第3回FDネットワーク代表者会議:資料)

AUTHOR(S):

加藤, 智美; 若林, 英樹; 阿部, 恵子; 丹羽, 雅之; 藤崎, 和彦; 鈴木, 康之

CITATION:

加藤, 智美 ...[et al]. 医学教育共同利用拠点としての現状と展望(<第2部>第3回FDネットワーク代表者会議:資料). 京都大学高等教育叢書 2011, 30: 216-226

ISSUE DATE:

2011-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/139337>

RIGHT:

MEDC

医学教育共同利用拠点としての 現状と展望

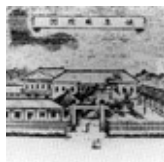
岐阜大学医学部医学教育開発研究センター
加藤智美、若林英樹、阿部恵子、
丹羽雅之、藤崎和彦、鈴木康之

MEDC

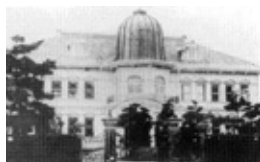
岐阜大学医学部の歴史

- 1876 岐阜県病院に医学校設立（司町地区）
- 1944 岐阜女子医学専門学校
- 1947 岐阜県立医科大学
- 1967 国立岐阜大学医学部
- 2004 国立大学法人 岐阜大学医学部
医学部・附属病院の移転・新築（柳戸地区）

明治



大正



昭和



平成



MEDC

岐阜大学医学部全景



MEDC



MEDC

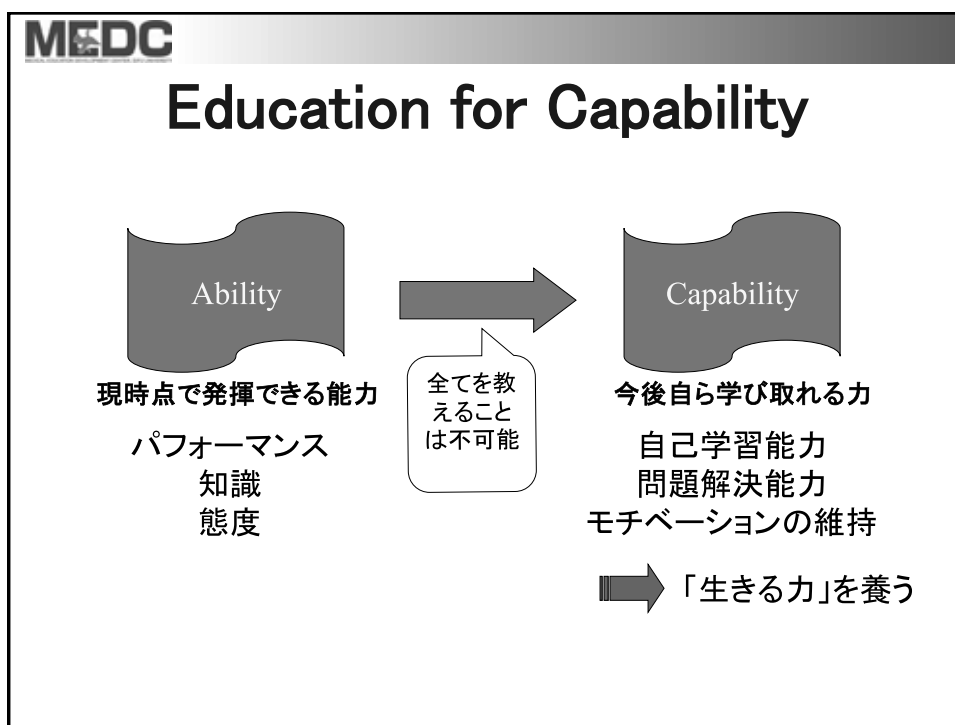
岐阜大学医学部 医学教育開発研究センター Medical Education Development Center (MEDC)

国立大学等の共同利用施設(旧国立学校設置法施行規則第20条の4の8で規定)として、「医学教育に関する調査研究及び開発、専門的研修その他必要な専門的業務を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の調査研究に従事する者の利用に供すること」を目的として、医学教育分野では初の全国共同利用施設として平成13年4月に設立。

MEDC

世界的な医学教育改革の流れ

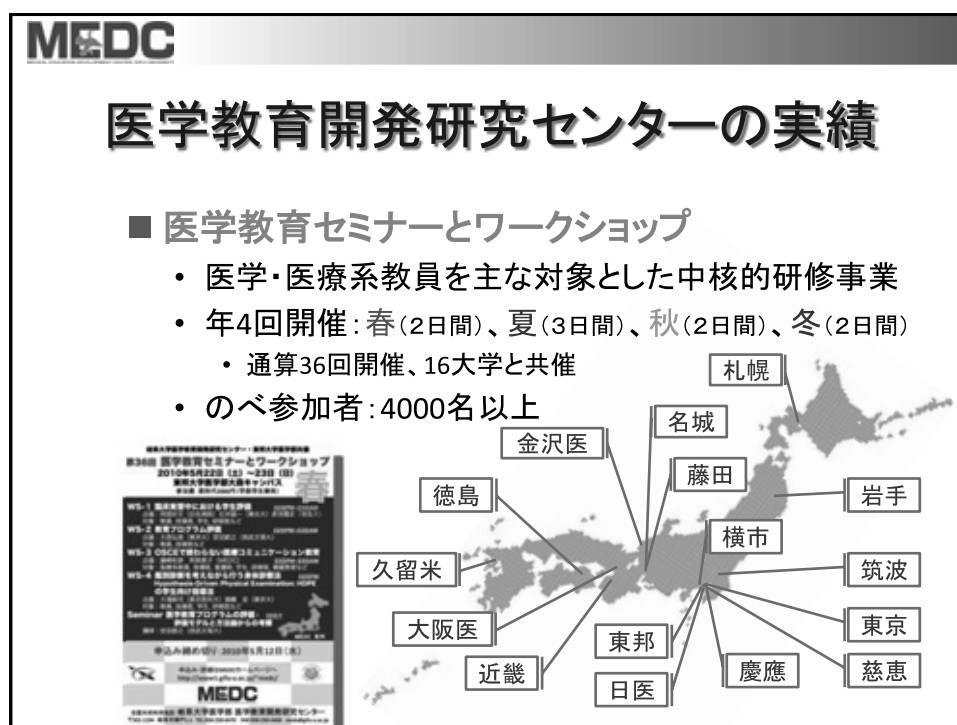
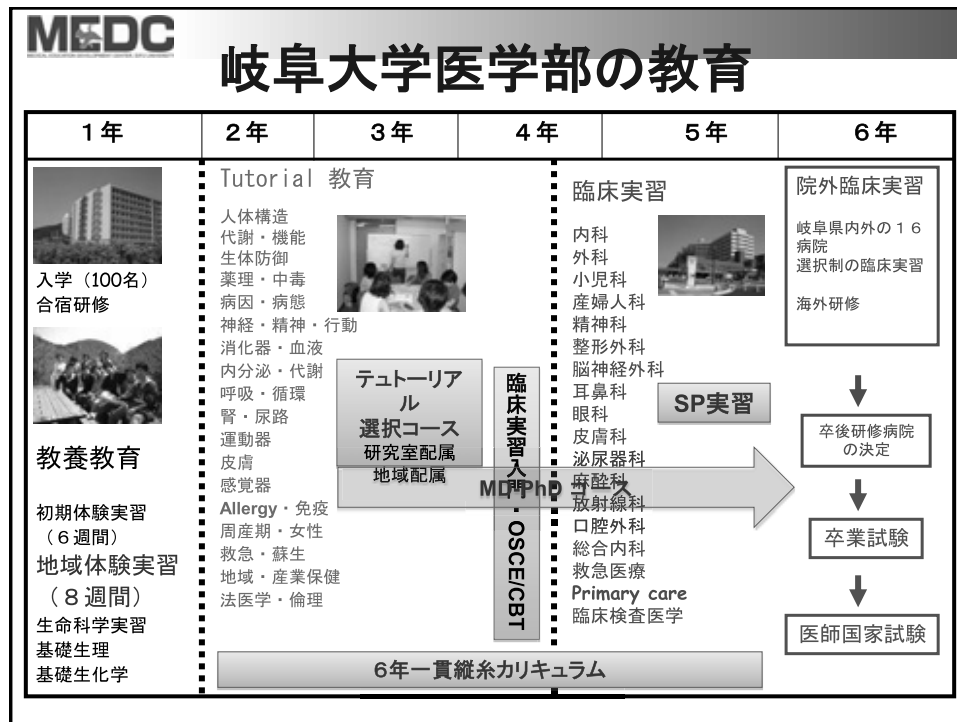
- 1960年代
 - ①行動科学教育を中心とした全人性教育
 - ②包括医療教育としての臓器別統合型カリキュラム
 - ③プライマリ・ケア医養成のための地域志向型教育
- 1970年代
 - 自己学習能力養成のための
PBL(問題基盤型学習)チュートリアル
- 1980年代
 - GPEレポート(AAMC:米国医科大学協会)
 - New Pathway の導入(ハーバード大学医学部)
 - OSCE(客観的臨床能力試験)の開発
- 1990年代
 - OSCE、PBLの世界中への広がり
- 2000年代
 - Outcome Based Education、
 - プロフェッショナル教育、ポートフォリオ評価



MEDC

岐阜大学の教育方略

| | |
|-----------------|------|
| • PBL-テュートリアル | 1996 |
| 統合カリキュラム | |
| • クリニカル・クラークシップ | 1996 |
| • 初期体験実習 | 1997 |
| • コミュニケーション教育 | 1999 |
| • 新カリキュラム | 2008 |



医学教育開発研究センターの実績

■ 教務事務職員研修（国立大学医学部長会議主催）

- ・ 教育支援に不可欠な事務職員の能力開発を目的
- ・ 年1回開催：通算9回開催（2泊3日）、のべ受講者 465名
- ・ フォローアップ：メーリングリストによる情報提供・情報交換

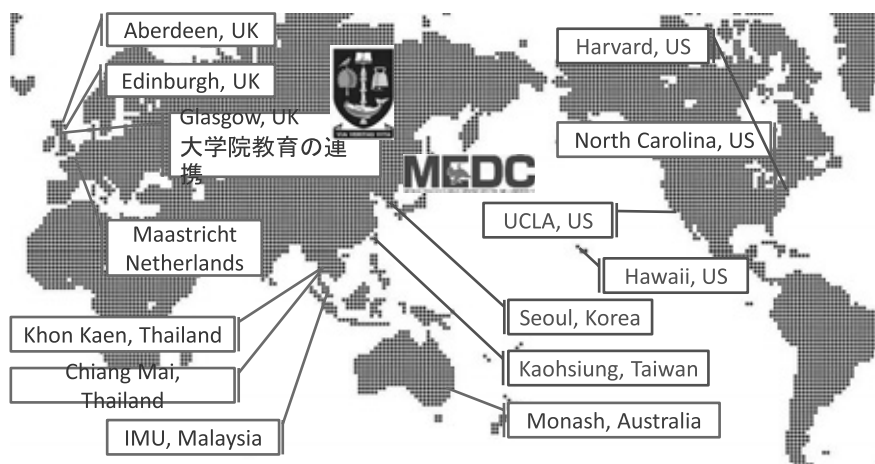
■ 他大学・組織に対する研修事業

- ・ 全国の医学部、医療系教育機関（歯学、薬学、看護、理学療法など）、学会等からの要請に応じて、医学教育に関する知識・技能・研修事業を提供

| | 組織数 | 依頼回数 | 年平均 |
|-------|-----|------|-------|
| 医学部 | 34 | 78回 | 8.7回 |
| 他の医療系 | 21 | 39回 | 4.3回 |
| 学会等 | 19 | 61回 | 6.8回 |
| 合計 | 74 | 178回 | 19.8回 |

医学教育開発研究センターの実績

■ 客員教授・国際交流



医学教育開発研究センターの実績

■ インターネット・テュートリアル教育

- ・ 大学、地域、国の枠をこえ、また学部・大学院などの各レベルに応じた問題基盤型共同教育（インターネット・テュートリアル教育）を運営
- ・ 通算62コースを実施
- ・ 参加者数のべ4349名（うち教員のべ502名）、参加国8か国

■ 大学院の設置



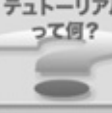
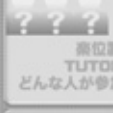
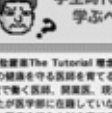
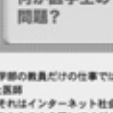
- ・ 医学教育学分野の研究促進と次世代の人材育成を目的
- ・ 平成20年4月、岐阜大学大学院医学系研究科博士課程に医学教育学分野設置

■ その他

特色ある大学教育支援プログラム「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」（平成15～18年度）、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「臨床医学教育を強化向上させるICT-e-Learning で培う医の心と技ー」（平成19～21年度）の採択

楽位置楽 THE TUTORIAL

楽位置楽The Tutorialとは、インターネット上で運営されるテュートリアル・システム。MEDCが運営します。世界中どこにいても、いつでもテュートリアル参加できます。自分の教員の教員のレベルに参加できる、医師向け自己学習です。自宅にいても、参加出来ます。すなわち、楽位置楽で楽しめるテュートリアルです。参加できるのは、全国の医学生、教員、医師など、全国のボランティア教員や医師がサポートします。教員・医師も本業の仕事しながら、教育に参加できます。

| 学ぶという事 | テュートリアル具体例 | 参加方法 | 連絡先 | ログイン |
|--|---|---|-----|------|
|  <p>学生として参加したい!</p> |  <p>現在どんなコースを募集中?</p> | <p>→ 楽位置への参加方法 ←</p> <p>はじめてテュートリアルに参加する方</p> <p>既にメンバーの方</p> <p>参加申し込みの手続きをする</p> <p>↓</p> <p>参加したいコースを選ぶ</p> <p>↓</p> <p>参加したいコースへ登録する</p> <p>↓</p> <p>登録完了のE-mailをもらう</p> <p>おめでとう! これで君も楽位置メンバーだ!</p> | | |
|  <p>テュートリアルって何?</p> |  <p>楽位置楽 THE TUTORIAL について どんな人が参加するの?</p> | | | |
|  <p>学生時代何を学ぶべき?</p> |  <p>何が医学上の問題?</p> | | | |

→ 楽位置楽The Tutorial 理念
国民の健康を守る医師を育てるのは、医学部の教員だけの仕事ではありません。
病院で働く医師、調剤師、検査技師、臨床研究員、公衆衛生専門家、医療政策の策定者、
あなたが医学部に在籍してなくても、それはインターネット社会では、何の障壁にもなりません。
新しい医療を創る人材を育てる仕事に、あなたの力を貸してください。

© 2018 MEDC



医学教育開発研究センターの実績

■ インターネット・テュートリアル教育

- ・ 大学、地域、国の枠をこえ、また学部・大学院などの各レベルに応じた問題基盤型共同教育（インターネット・テュートリアル教育）を運営
- ・ 通算62コースを実施
- ・ 参加者数のべ4349名（うち教員のべ502名）、参加国8か国

■ 大学院の設置

- ・ 医学教育学分野の研究促進と次世代の人材育成を目的
- ・ 平成20年4月、岐阜大学大学院医学系研究科博士課程に医学教育学分野設置

■ その他

特色ある大学教育支援プログラム「能動・思考促進型を柱とする全人的医学教育」（平成15～18年度）、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「臨床医学教育を強化向上させるICT－e-Learning で培う医の心と技－」（平成19～21年度）の採択



共同利用する大学や利用者に対する支援体制

■ 他大学からの要請に応じた講師派遣

■ 他大学の教育・研修施設との連携

- ・ 医学教育セミナーとワークショップ（以下医学教育S&W）において共催校の教育・研修組織と連携し、企画・運営

■ 教職員研修に関する情報収集・調査研究と相談体制

- ・ 医学教育S&Wにおける参加者の満足度・フィードバックなどの調査（毎回）結果を“新しい医学教育の流れ”（年4回当センター発行）に掲載
- ・ 研修事業分析結果の日本医学教育学会機関誌への報告
- ・ 視察・相談の受入（随時）（年間約10件程度）



共同利用する大学や利用者に対する 支援体制

■ 研修コンサルタントとしての経験、専門性を備えた専任 担当者

- ・ 専任スタッフは医学教育S&Wの講師を務め、また他大学等の要請に応じて各種研修会を企画・指導する力を備えている。
- ・ 教員毎に多様な専門性(問題基盤型学習、医療コミュニケーション、臨床スキル、シミュレーション教育、eラーニング、プロフェッショナリズムなど)

■ 教職員の組織的な研修等を支援するための教材やプ ログラム等を開発する体制

- ・ “新しい医学教育の流れ”に、医学教育S&Wで使用した各種資料を掲載
参加者自らが研修会を実施する際の支援教材となっている
- ・ 当センター教員は他大学等の要請に応じて研修を企画する能力を有しており、
他大学の教員と共にプログラムを開発する体制となっている



教育関係共同利用に関する 情報提供・情報発信

■ 新しい医学教育の流れ

- ・ 医学教育S&Wの記録集として年4回発行。
- ・ 全国の医学部・歯学部、医学教育組織等に情報提供。

■ センター年報

- ・ センターの取組実績について毎年1回発行。全国の医学部等に情報提供

■ 出版事業

- ・ 問題基盤型学習、医療コミュニケーション、医療英語などに関して教材を出版



■ 各種パンフレット

- ・ 医学教育開発研究センターの概要、問題基盤型学習の解説、大学院の概要



MEDC

教育関係共同利用に関する 情報提供・情報発信

- ホームページ <<http://www1.gifu-u.ac.jp/%7Emedc/index.html>>
 - ・ 医学教育S&W、インターネット・チュートリアル、医療コミュニケーション教育、客員教授、医学教育ユニットの会、医学教育用語解説(ビタミンEメール、ながら情報)、スキルスラボ、シミュレーション学習教材などの情報提供
- メーリングリスト
 - ・ 医学教育S&W参加者向け、教務事務職員向け、医学教育ユニット教員向けに各種メーリングリストを構築し、医学教育に関する最新情報、各種研修会や共同プロジェクトに関する情報提供、参加者間の情報交換・意見交換を行っている。

M&DC

医学教育共同利用拠点としての 今後の展望

■ 従来の研修事業の継続・発展

- 医学教育S&W: 受講者のニーズに合わせた対応の強化
- 他大学他大学における教員研修: 各大学の指導者育成への一層の貢献
- 大学院: 高度な医学教育専門家の育成および研究成果の情報発信の推進
- 客員教授と国際交流: 国内外の連携のさらなる促進

■ 共同研究・共同開発事業の強化